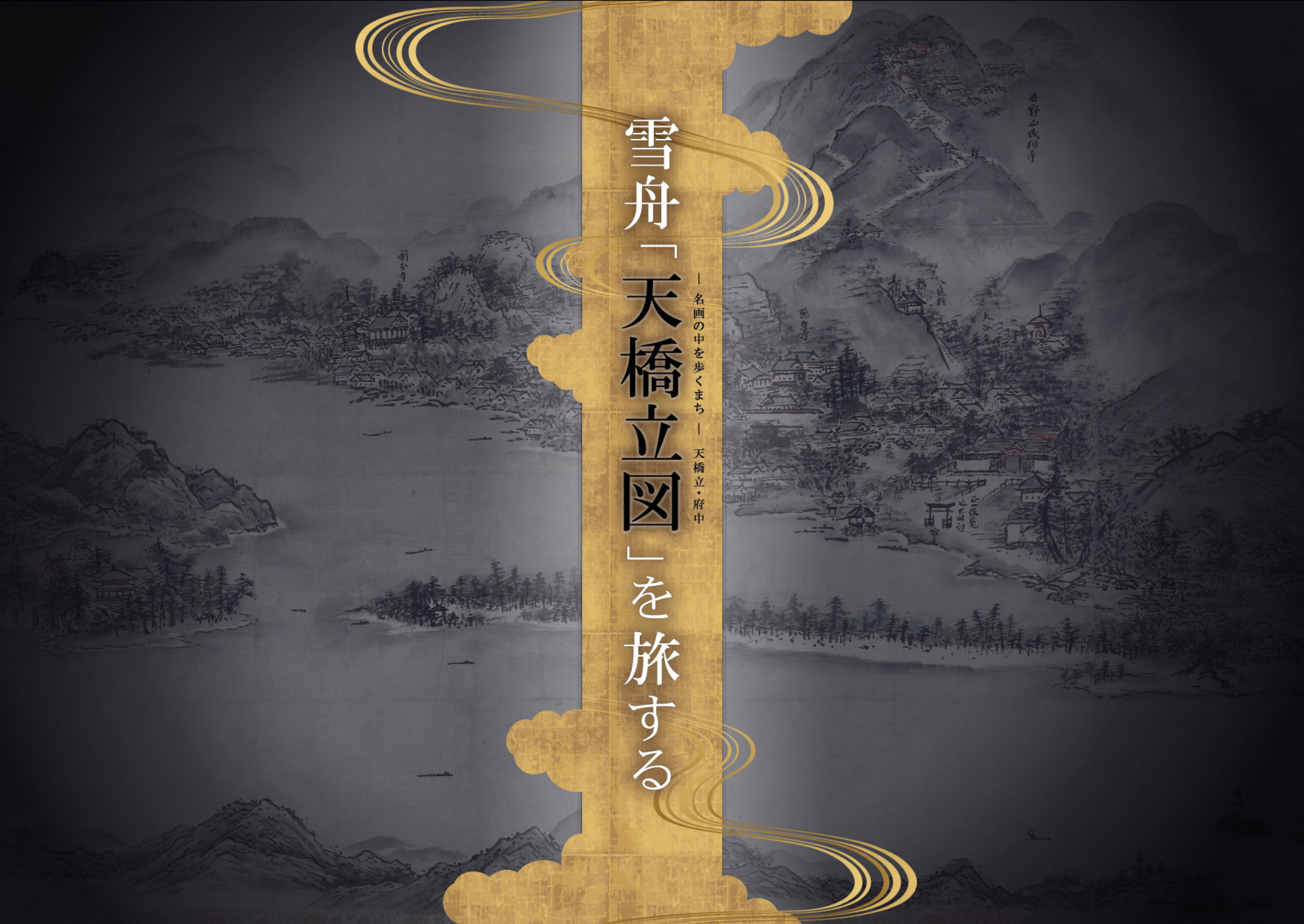


雪舟「天橋立図」を旅する

―名画の中を歩くまち―　天橋立・府中

天橋立図

――天橋立を眺める《神の視点》

雪舟晩年の大作、国宝「天橋立図」。massが居並ぶ室町時代の守護所・丹後府中の姿は、当地をくまなく歩き、見聞きした光景や物語を再構成した《雪舟の記憶》でした。六百年前と現在の風景を比べながら、名画「天橋立図」の中を歩いてみましょう。

国宝「天橋立図」（京都国立博物館 蔵）

9 國分寺（こくぶんじ）
（丹後国分寺跡）

天平13年（741）に聖武天皇の詔によって全国に建てられた国分寺の一つ。建武元年（1334）に円源房宣基により再建され、『天橋立図』には五重塔と金堂、中門や塀、堂舎が描かれている。

8 北野（きたの）
（天神神社）

丹後知行国主であった平重盛が勧請したものとされ、享保11年（1726）刊『丹後国天橋立之図』には、重盛が「小松殿」と呼ばれたことから、在国中の居館が置かれたこの地を小松といったと解説されている。

7 諸山寶林寺（しょうざんほうりんじ）
（宝林寺跡）

正応2年（1289）に臨済宗の僧・無象静照が開山した「丹之宝林寺」に該当すると考えられる。山号は如意山。五山・十刹に次ぐ諸山に列せられている。

11 成相寺（なりあいじ）

慶雲元年（704）真応上人の開基とされる西国二十八番札所。山号は成相山（雪舟の時代は世野山）。朱を施された本堂と五重の塔、数多の堂舎が居並ぶ壮観は、『成相寺参詣曼荼羅』にも詳しく描かれている。

6 十刹安國寺（じゅっさつあんこくじ）
（安国寺跡）

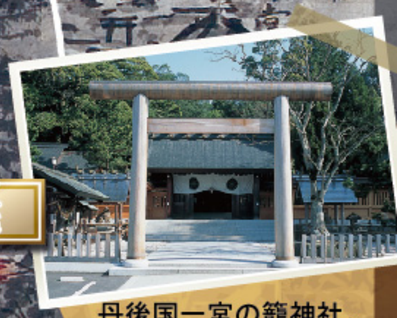
智恩寺を禅宗に改宗した嵩山居中が開山。弟子の宝山浮玉に寺庵を譲り、秋月庵と呼ばれたが、暦応2年（1339）に丹後国の安国寺とされた。山号は鳳凰山。小字が東西130m、南北60mに分布し、大寺院であったと推定される。

5 慈光寺・辯才天（じこうじ・べんざいてん）

慈光寺はかつての丹後守護・一色満範の法号「慈光寺殿」を寺号とする一色氏の氏寺。「天橋立図」には5つの堂舎、土塀などが描かれている。「辯才天」は府中小学校付近に小字があり、『丹後国天橋立之図』には「慈光寺の鎮守也」と記載されている。

10 大谷寺・今熊野（おおたにじ・いまくまの）

真言宗の古刹。山号は天蓋山。籠神社の神宮寺として広大な寺域を誇り、かつては多くの子院を擁した。図中には「不動」（不動明王を祀る堂？）の墨書や宝塔が描かれている。山中の「今熊野」は熊野権現と考えられ、一色氏はここに城を築いた。



4 一宮・大聖院（いちのみや・だいしょういん）

丹後国一宮の籠神社。海岸に大きな灯籠が立ち、三蹟の一人、小野道風の筆と伝わる「正一位籠大明神」の扁額（現存）を掲げた両部鳥居や、朱塗りの社殿が描かれている。右手前は、文明5年（1473）に一宮供僧・智海が守護一色義直を大檀那として開いた「大聖院」。

天橋立図と比べながら歩いてみよう！

① 天橋立桟橋 ― 一の宮桟橋 ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪

徒歩2分	観光船12分	徒歩5分	徒歩5分	徒歩5分	徒歩3分	徒歩10分	徒歩3分	徒歩3分	徒歩10分	海沿いを散策	ケーブルカー・徒歩 約12分

現地案内板あり　現地案内板なし　緊急避難所　津波避難場所(高台)

獣害防止柵あり
出入り可能ですが開放厳禁！ドアは必ず閉めて下さい。

※この地域は、毎日AM11時(周辺地域は正午)に30秒間サイレンが鳴ります。

こんなサイレンが聞こえたら注意　1分 休止 5秒 1分

津波警報による「避難指示」サイレンです。すぐに高台へ避難してください。（津波避難ゆうどう看板あり）

1 智恩寺（ちおんじ）

大同3年（808）の開基と伝えられる日本三文殊の一つ。山号は天橋山。『天橋立図』に寺名の記載はないが、朱が塗られた宝形造の文殊堂や、守護代の延永春信が建立した多宝塔、一色氏家臣・成吉氏や室町幕府奉公衆・三上氏の発願により1430年前後に造立された二体の地蔵石仏が描かれている。今は埋め立てられた入江には、明治12年（1879）に智恩寺境内に移築された弁財天女堂が見える。

2 天橋立（あまのはしだて）

松林の中には、天照大神が与謝宮（籠神社）に移る前に一時的に祀られたという橋立明神（天橋立神社）らしき建物が描かれている。「白糸浜」と呼ばれた海辺には「橋立」の墨書がある。

3 弁財天周辺（べんざいてん）

“べざいと”の愛称で親しまれる「弁財天」は、市杵島姫命を祀ることから「江之姫神社」と呼ばれている。天橋立から続く街路は“大道”というが、図中にはそれとおぼしき道状の白線や「千歳橋」、「通堂」が描かれている。海岸には「大松」がその威容を誇っていた。

天橋立図の謎

日本の絵画の中で“最も謎が多い”といわれる国宝「天橋立図」。
代表的な七つの謎をご紹介しましょう。

国宝「天橋立図」作者：雪舟等楊(1420～1506?)
材質：紙本墨画淡彩　縦89.4cm×横168.5cm（表具別）
形状：掛幅装一幅　所蔵：京都国立博物館

壱 視点の謎

空を飛ぶ乗物のなかった時代にも関わらず、本来の山頂より700mも高い視点から描かれている。航空写真と比較すると、そのリアル感に驚かされる。一見すると写生のようだが、細部はかなりズレがある。雪舟は数カ所からの眺めをスケッチし、一枚の絵として編集したといわれている。ただ、どの地点から描かれたのかは明確になっていない。今後の解明が待たれるところである。

弐 遠近の謎

手前の山並みは近景から遠景へと変化しているが、中央の智恩寺や天橋立は再び近景になっている。また、「核」となる府中が大きく描かれ、成相山も異様に高く表現されている。さらに、本来は沖合20kmに浮かぶ冠島、沓島が黒崎のすぐ近くに描かれている。故・中嶋利雄氏は、天橋立の根もと辺りから見た栗田半島を裏返しにして描けば、島の位置も合うと指摘、多くの支持を集めている。

参 制作年代の謎

『天橋立図』は雪舟最晩年(82歳頃)の作品といわれるが、こんな大作を老人が本当に描けるのか?62歳の頃、美濃に行った際に立ち寄ったとする説もある。問題は中央左手に描かれた文亀元年（1501）建立の智恩寺の多宝塔。美濃東遊の頃にはまだ建っていなかった塔をいつ描いたのか?最新の研究では、新たな文献の紹介によって最晩年説が有力となっている。

四 雪舟の目的

雪舟は何の為に天橋立にやってきたのか?「漂泊の禅僧」というイメージが強い雪舟だが、実際には山口の大内氏お抱えの画僧で、雲谷庵というアトリエもあった。諸国を旅し、その様子を絵にして報告する。今でいえば特派員的な役割であろうか。天橋立への旅も政治的な理由である可能性が指摘されている。いずれにせよ本来の目的とは別に当地の魅力に“相当ハマった”ようではあるが。

五 紙継の謎

『天橋立図』は21枚の紙を貼り合わせた「下絵」である。しかも、綺麗に貼り合わされておらず、山の稜線がつながっていなかったり、折れ目やシミ、紙やけもある。一枚継がれてからも中折りにされていたようで、寺社に施された朱が折られた反対側に付いたりもしている。国宝の絵というには乱暴に取り扱われた印象があるのはなぜか?

六 伝来の謎

『天橋立図』は、寛政12年（1800）土佐藩山内家の江戸藩邸にあった。門外不出であったが、秋田藩佐竹家が頼み込んで原寸模写を行なっている。徳川家が完成作を持っていて焼失したという話もあるが、信憑性に欠ける。地元では籠神社や成相寺にあったという説も話題になるが、他の絵と混同している可能性も否定できないようだ。最新の研究では、パリのギメ美術館収蔵の「天橋立図」が完成作の写しではないかと注目されている。

七 描かれなかった場所

『天橋立図』は安国寺から慈光寺に至る中野地区が約450mにも渡って完全に削られている。当時このエリアには、妙立寺や大乗寺、「橋立道場」と呼ばれた時宗の万福寺、国府ゆかりの飯役社（印鎰社）などがあった。雪舟が描いたのは古社名刹や禅宗の寺院、とはいえ籠神社の奥宮・眞名井神社などは見あたらない。宗教観の違いなのだろうか。また、中野地区には丹後守護一色氏にとって何か重要な拠点があったからとする説もあり、謎は尽きない。

交通アクセス

京都・大阪から天橋立へ

	京都から	大阪から
お車（ご利用の場合）	約１時間35分（沓掛IC～与謝天橋立IC／高速道路利用）	約１時間45分（吹田IC～与謝天橋立IC／高速道路利用）
列車（ご利用の場合）	約２時間（京都駅～天橋立駅／最速目安）	約２時間20分（大阪駅～天橋立駅／最速目安）
バス（ご利用の場合）	約２時間（京都駅前～天橋立駅前／最速目安）	約３時間（阪急梅田駅前～天橋立駅前／最速目安）

【京都】沓掛IC―〈京都縦貫自動車道〉―丹波IC―国道27号―京丹波わちIC―〈京都縦貫自動車道〉―綾部JCT―与謝天橋立IC
【大阪】吹田IC―〈中国自動車道〉―吉川JCT―〈舞鶴若狭自動車道〉―綾部JCT―〈京都縦貫自動車道〉―与謝天橋立IC

【京都】JR京都駅―JR福知山駅―KTR宮津駅―KTR天橋立駅（JR山陰本線・KTR宮福線経由）
【大阪】JR大阪駅―JR福知山駅―KTR宮津駅―KTR天橋立駅（JR福知山線・KTR宮福線経由）

【京都】JR京都駅前―KTR天橋立駅前
【大阪】阪急梅田駅前―KTR天橋立駅前

天橋立から府中（傘松公園）へ

お車（ご利用の場合）	約12分（与謝天橋立IC～傘松公園）	観光船（ご利用の場合）	約15分（天橋立駅～一の宮桟橋）	バス（ご利用の場合）	約30分（天橋立駅～神社前）

【天橋立】与謝天橋立IC―国道176号―国道178号
※宮津天橋立IC～傘松公園まで 約25分

【天橋立】天橋立駅―〈徒歩3分〉―天橋立桟橋―〈観光船12分〉―一の宮桟橋

【天橋立】天橋立駅前・路線バス乗場（丹海バス）―傘松ケーブル下または神社前下車

〔列車〕北近畿タンゴ鉄道(株)
天橋立駅 ☎0772-22-2348
宮津駅 ☎0772-22-3307
〔タクシー〕
日交タクシー（宮津） ☎0772-22-2188
〔レンタカー〕
ニッポンレンタカー
宮津天橋立営業所 ☎0772-22-0382
駅レンタカー 宮津営業所
宮津営業所 ☎0772-22-0948
〔バス・観光船〕
丹後海陸交通㈱本社 ☎0772-42-0321
宮津案内所 ☎0772-22-3231
天橋立営業所 ☎0772-22-2164
一の宮桟橋 ☎0772-27-0023
成相営業所 ☎0772-27-0032
〔観光案内〕
丹後観光情報センター（天橋立駅観光案内所）（問合せ時間/9:00～18:00）
㈳天橋立観光協会 ☎0772-22-8030
宮津天橋立観光旅館協同組合（宿泊案内） ☎0772-22-8030

さあ！このパンフレットを片手に「天橋立図」の中を旅しよう！

雪舟の時代を体感！

現地には、案内板が立っています！

看板マークのついた９箇所のポイントには案内板が立っています。天橋立・府中は、雪舟が描いた当時の地形や寺社、小字名などが今でも残っているので、現在の風景から「天橋立図」の風景を辿ることができるのです。

QRコードで詳しい情報!!

現地の各案内板には、QRコードが付いています。QRコードを読み取りスマートフォン等でサイトへアクセスすると、さらに詳しい話や関連情報が確認できます。

WEBサイトでも天橋立図を旅しよう！

「天橋立図」を旅するパンフレットや詳しい情報は、WEBサイトでもご覧いただけます。
さぁ、今すぐアクセス！　あまのはしだてねっと　検索

府中をよくする地域会議　名画の中を歩くまち －天橋立・府中－　雪舟「天橋立図」を旅する　http://www.amanohashidate.info/time-travel/

詳細・参考文献についてはWEBサイトをご覧ください。